SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクター

世界のM&A市場における 将来の
トレンドを予測する四半期レポート

2020年4-6月期までの世界中のM&A活動の予測

まえがき

SS&Cイントラリンクスは、グローバルバンキング、ディールメイキング、プライベートエクイティ、キャピタルマーケットコミュニティ分野向けのバーチャルデータルーム（VDR）をはじめとするソフトウェアおよびサービスを提供する大手金融テクノロジープロバイダーとして23年以上の実績を誇ります。弊社のソリューションは、バイサイド/セルサイドM&Aディール管理、オルタナティブ投資資金調達および投資家レポート、債券と株式の資本調達、シンジケートローン管理、銀行/証券/法務分野のコラボレーションをサポートします。世界中で行われるM&A取引の多くと初期段階から関わることで、将来公表されるであろうM&Aのディール件数を、独自の知見で予測しています。

*SS&Cイントラリンクス　ディール・フロー・プレディクター*は、*初期段階*のM&A活動（準備段階またはデューデリジェンス段階に達したセルサイドのM&Aディール）を追跡調査することで、今後のM&A活動の公表件数を予測します。こうした初期段階のディールとは、通常、ディール公表前の平均6カ月前を指します。

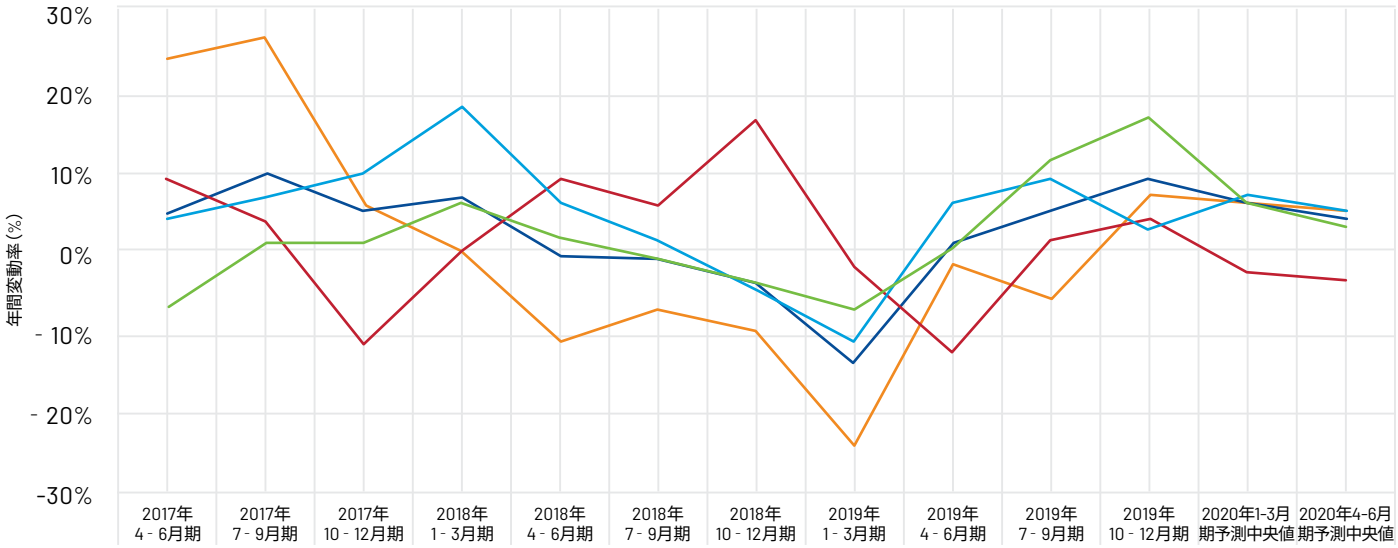
*SS&Cイントラリンクス　ディール・フロー・プレディクター*の最新レポートでは、2020年上半期の公表済みM&A活動予測のほか、環境、社会、ガバナンス（ESG: environmental, social, governance）への考慮事項がディールメイキングにもたらす影響についての特集を掲載しています。また、インタビューでは、シンシナティ大学カール H. リンドナー カレッジ・オブ・ビジネス経営学部長兼教授のマリアンヌ・ルイス氏に、新たに発行されるイントラリンクスの調査レポート、*ジェンダー・ダイバーシティとM&Aの成果*についてお話を伺いました。2月18日に発行予定のこの調査レポートは16,700件を超えるM&A取引の20年に及ぶ世界規模の調査に基づいて作成され、女性の取締役レベルの代表者が企業の取引に与える影響について独自の新たな調査結果を記載しています。

フィリップ・ウィチェロ
イントラリンクス バイスプレジデント

@PhilipWhitchelo

/PhilipWhitchelo

リフィニティブ社が発表したM&Aディール件数の前年比変動率（%）とイントラリンクスによる次の2四半期の予測中央値



	2017年 4 - 6月期	2017年 7 - 9月期	2017年 10 - 12月期	2018年 1 - 3月期	2018年 4 - 6月期	2018年 7 - 9月期	2018年 10 - 12月期	2019年 1 - 3月期	2019年 4 - 6月期	2019年 7 - 9月期	2019年 10 - 12月期	2020年1-3月期予測中央値	2020年4-6月期予測中央値
APAC	4%	7%	10%	18%	6%	2%	-6%	- 11%	6%	9%	3%	7%	5%
EMEA	- 7%	1%	1%	6%	2%	-2%	- 5%	- 7%	0%	12%	17%	6%	3%
中南米	9%	4%	- 11%	0%	9%	6%	16%	- 3%	-13%	2%	4%	- 3%	- 4%
北米	24%	26%	6%	0%	- 11%	- 7%	-9%	- 24%	- 3%	-6%	7%	6%	5%
全世界	5%	10%	5%	7%	- 1%	-2%	-6%	- 14%	1%	5%	9%	6%	4%

*SS&C イントラリンクス ディール・フロー・プレディクター*は、世界で発表されるM&Aディール件数（リフィニティブ社[2]aによる報告）に関する将来的変動を予測する正確な6カ月先行指標として 認められています[1]。

[1] https://www.intralinks.com/resources/publications/intralinks-dfp-explained

[2] https://thesource.refinitiv.com/thesource/getfile/index/ccfa0895-7ebc-47bf-ae65-b1f792034ee2 イントラリンクスは、リフィニティブ社による過去4四半期の公表ディール件数についてのデータを独自に調整し【調整値】、公表ディール件数における将来の変動見通しを報告しています。

全世界のM&A活動予測
4ページ →

ESGとM&Aの関係：意識改革の波
6ページ →

インタビュー：マリアンヌ・ルイス（Marianne Lewis）
8ページ →

概要

2020年は新たなM&Aアップサイクルの始まりか？

世界のM&A活動は過去2年にわたり失速していましたが、2020年はその新たな成長サイクルの始まりの予兆があります。過去6カ月にわたる世界のバーチャルデータルームでの初期段階のデューデリジェンスM&A活動における件数に基づき、イントラリンクスの予測モデルでは、2020年上半期に公表される世界のM&Aディール件数は、前年同期比で約5%増加し（+10%～0%の範囲内）、その成長を牽引する主な業種は医療、原材料、TMT（テクノロジー、メディア、電気通信）と見込まれます。

アジア太平洋地域

アジア太平洋地域（APAC）の2020年上半期におけるM&A公表ディール件数は、前年比約6%増加すると予測されます（+1%～+11%の範囲内）。また、その成長を最も牽引する業種は、原材料、消費者向け製品&小売、医療と見込まれます。

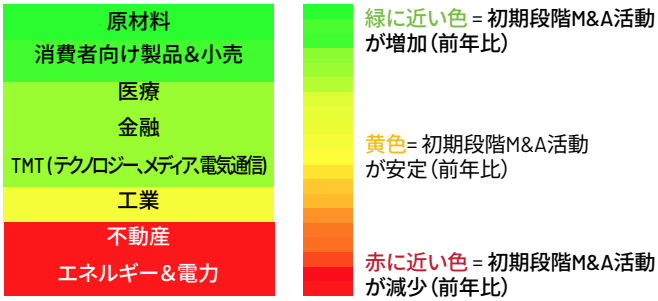
APACの全地域で上半期の公表ディール件数が増加する見込みで、なかでも日本、インド、東アジア（中国、香港、韓国）がM&A活動を牽引すると予測されます。

APAC

2020年上半期　予測中央値：+6%

2020年上半期　予測上限値：+11%

2020年上半期　予測下限値：+1%



ヨーロッパ/中東/アフリカ

ヨーロッパ/中東/アフリカ（EMEA）の2020年上半期のM&A公表ディール件数は、前年比約4%増加すると予測されます（+1%～+7%の範囲内）。また、同地域の成長を最も牽引するエリアと業種は、東ヨーロッパ、北ヨーロッパ（ベネルクスおよび北欧）、中東におけるTMT（テクノロジー、メディア、電気通信）、金融、エネルギー&電力分野と見込まれます。

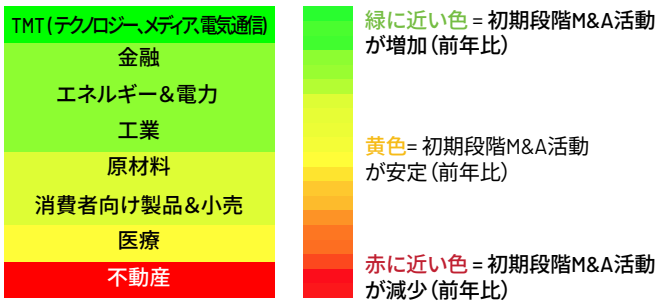
欧州の5大経済国の中で、イタリア、英国、ドイツは2019年上半期に比べて2020年上半期のM&A公表件数が増加すると予想されますが、M&A活動はフランスでは減少し、スペインでは横ばいになると予測されます。英国の12月の総選挙で保守党が勝利した後、英国の初期段階のM&A活動は10-12月期に前年比で24%急増しました。

EMEA

2020年上半期　予測中央値：+4%

2020年上半期　予測上限値：+7%

2020年上半期　予測下限値：+1%



中南米

中南米（LATAM）の2020年上半期のM&A公表ディール件数は、前年比約4%減少すると予測され（-9%〜+2%の範囲内）、主に金融、工業、エネルギー&電力分野が同地域の成長を牽引すると見込まれます。

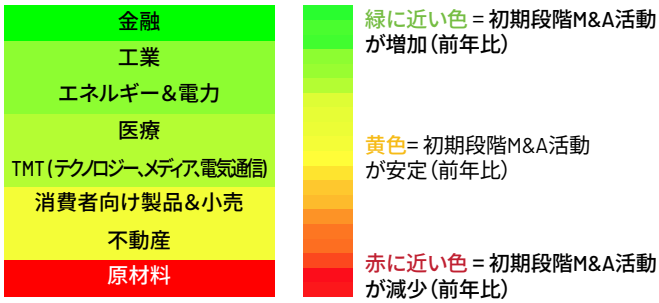
LATAMの最大経済国のうち、メキシコとペルーにおいて上半期のM&A公表ディール件数の増加が見込まれ、 M&A活動はブラジルが横ばい、アルゼンチン、チリ、コロンビアが減少すると予測されます。

LATAM

2020年上半期　予測中央値：-4%

2020年上半期　予測上限値：+2%

2020年上半期　予測下限値：-9%



北米

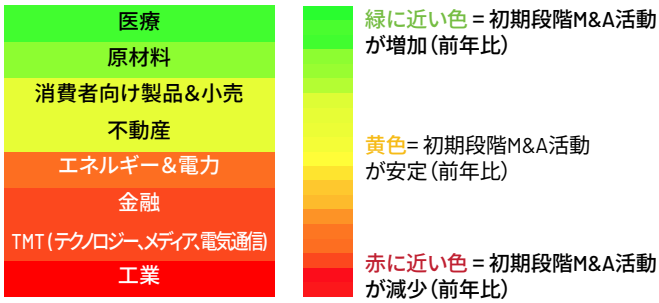
北米の2020年上半期のM&A公表ディール件数は、米国でのディールメイキング件数の増加により、前年比約5%増加すると予測されます（-2%〜+14%の範囲内）。また、その成長を牽引する主な業種は、医療、原材料、消費者向け製品&小売と見込まれます。

北米

2020年上半期　予測中央値：+5%

2020年上半期　予測上限値：+14%

2020年上半期　予測下限値：-2%



ディールに関する知見はこちらから：

intralinks.com/jp/insights-all

スポットライト

ESGとM&Aの関係：意識改革の波

環境、社会、ガバナンス（ESG）基準は、社会的意識の高い投資家が潜在的な投資先を選別するために使用する、企業運営に関する一連の基準です。[3]

当初、ESGに関する懸念は、最終的な利益や企業の総合的な成功に目に見える影響を及ぼさない「ソフト面の問題」と考えられていました。ESGは長年、投資環境の一部とみなされてきましたが、ここ数年で持続可能性の要因が重視され、重要性を帯びるという著しい変化がありました。企業はESGのビジネス慣行を詳細に検討し、買収の可能性がある案件や利害関係者との関わりにおいてそれらを考慮しています。プライベートエクイティファンドは潜在的な投資対象を各社のESG認証に基づいて選別し、この分野のポリシーについて自らの投資家からの厳しい監視にも直面しています。また、年金およびソブリンウェルスファンドはESG検討事項を投資基準の一部としています。

国連責任投資原則（United Nations Principles for Responsible Investing）

- **原則1：**私たちは投資分析と意志決定のプロセスにESGの課題を組み込みます。
- **原則2：**私たちは活動的な（株式の）所有者となり、ESGの課題を（株式の）所有方針と慣行に組み込みます。
- **原則3：**私たちは、投資対象の企業に対してESGの課題についての適切な開示を求めます。
- **原則4：**私たちは、投資運用業界において本原則が受け入れられ、実行に移されるよう働きかけます。
- **原則5：**私たちは、本原則を実行する際の効果を高めるために協働します。
- **原則6：**私たちは各自、本原則の実行に向けた活動および進捗状況について報告します。

地球に与える影響について、私たちは個人的にも以前より意識するようになってきたため、周囲の企業に対しても、より大きな責任を負うことを期待しています。

金融業界の多くの大手企業は独自のESGガイドラインを導入していますが、同時に、責任投資のためのグローバル基準を提供する6つの原則である、国連が支援する責任投資原則（PRI）に登録する企業も増えています。[4]

持続可能な資産市場は、全体的に急速に成長しています。*Global Sustainable Investment Review*の報告によると、ESGを含む持続可能な投資は2年間で34%増加し、2018年初めまでに30兆米ドルを超す規模に達しています。[5]

複雑化が進むビジネスの世界では、強力なESG基準の順守は、大手企業が自社を差別化するひとつの方法と見なされています。

例えば、プライベートエクイティファンドは、資金の調達と展開、投資家のための平均を上回る資本利益率の達成という一様のプレッシャーのもと、飽和状態のディールメーカーのなかで際立つために独自のESG認証を活用しています。イントラリンクスでは以前、社会的意識の高いリミテッドパートナーが企業価値と責任ある業務遂行を重視しており、こうしたことがリスクを緩和し、利益を確保するのに役立つということを述べました。[6]

ESGの要因は通常の事業の過程においても重要性が増しているため、投資の意思決定やM&A業務においても重視されています。

ある企業のM&A専門家は次のように述べています。「見込みあるターゲット企業のESG認証が不足していると感じたら、その投資からは手を引きます。」この意見にプライベートエクイティ専門家も同意し、「自社の投資家ベースからの圧力があると、ESGがやや困難になっている場合、事業への投資の準備がまったくできなくなります」と述べました。

この二人の専門家によれば、M&A取引におけるデューデリジェンスのプロセス中にESGの問題に関して実施する精査が著しく増加しているのと同時に、会社がESG原則を遵守しているかどうかを自社の投資家が厳密に調査しています。これはESG重視の兆候が金融業界全体に広がっていることを示唆しています。

投資プロセスにおけるESGの重要性の高まりについては疑いの余地がなく、国連のPRIがこれを実に明確に示していますが、予想されるように、世界中ではさまざまなレベルの導入があります。例えば、欧州連合はESGに関する独自の勧告を発行し、具体的な規制を最終決定しようとしています。これまで北欧諸国がESGの導入をリードしてきたため、ヨーロッパの多くの企業は実際に強力なESG認証資格を取得しています。米国は、投資プロセス中にESGの主な検討事項を論じることに関して遅れをとっていると言われていますが、実際の状態はそれほど悪くなく、金融以外のすべての分野の米国上場企業でESG企業開示スコアが2011年から2016年にかけて上昇しました。[7] アジア太平洋地域の市場でもESGに対する認識が高まっているものの、投資家による分析とプロセスへのESG要因の統合は比較的低い水準です。このESG統合の主な障壁として、ESGの問題に対する理解が限定的であり、比較できるESGデータと共通の報告基準が整っていないことが挙げられます。[8]

> ある企業のM&A専門家は次のように述べています。「見込みあるターゲット企業のESG認証が不足していると感じたら、その投資からは手を引きます。」

残念ながら現在の金融業界では、強力なESG基準の順守は、正しいことを行うというよりもむしろリスク軽減のため、という認識があるようです。IHS Markit と Mergermarket の最近のレポート、*ESG on the Rise: Making an Impact in M&A*[9] では、ESGはM&Aのプロセスにどのように適合するかについてM&Aディールメーカーとファンドマネージャーに尋ねています。そのなかで、ほとんどの回答者が、ESG関連の事柄を考慮する主な理由としてビジネスリスクと負債を負う可能性を挙げています。報告書ではさらに、多くの回答者にとって世間のイメージが、さまざまなESG関連の事柄（気候変動、温室効果ガスの排出、労働基準、人権など）を一つに結びつける糸のようなものであると述べています。同レポートでは、ESGにおける失敗を主に、今日の社会的意識が高まった人々によって引き起こされるビジネスリスクであると見なしている、米国の企業幹部の次のようなコメントを引用しています。「社会運動が顕著に増加しています。活動家が取り上げようとするさまざまなESG要因を無視したことにより、有名企業が倒産する多くの事例を見てきました。」

とはいえ、圧倒的多数の回答者が、今後12か月から24か月の間にM&Aの意思決定においてESGの問題の重要性が高まると予測しています。企業が世界に与える影響に対する人々の意識が変化するスピードと、「良い行動をとる」ことを選択した企業は持続力やリスク調整後の利益率も高まることがますます証明されていることを考えると、ESG要因はもはやソフト面の問題として片付けられるものではないでしょう。[10]

[3] https://www.investopedia.com/terms/e/environmental-social-and-governance-esg-criteria.asp
[4] https://www.unpri.org/
[5] http://www.gsi-alliance.org/
[6] https://www.intralinks.com/blog/2019/09/esg-can-give-private-equity-firms-competitive-advantage-among-socially-conscious
[7] https://www.unpri.org/investor-tools/esg-integration-in-the-americas-markets-practices-and-data-/3624.article
[8] https://www.unpri.org/investor-tools/esg-integration-in-asia-pacific-markets-practices-and-data/4452.article
[9] https://www.acuris.com/esg-rise-making-impact-ma?utm_campaign=10515098_IHS%20Markit%2001%20-%20ESG&utm_medium=email&utm_source=read-full-top&dm_i=1D5J,69DI2,6ZOEZ7,OOSAZ,1
[10] https://www.unpri.org/academic-research/how-esg-investing-affects-financial-performance/548.article and https://www.corporateknights.com/reports/global-100/global-100-difference-15481154/

ディールに関する知見はこちらから：
intralinks.com/jp/insights-all
INTRALINKS IN

インタビュー

ジェンダー・ダイバーシティとM&Aの成果

今号のSS&Cイントラリンクス *ディール・フロー・プレディクター*ではマリアンヌ W. ルイス（Marianne W. Lewis）博士にインタビューを行い、イントラリンクスの新しい調査レポート、「ジェンダー・ダイバーシティとM&Aの成果：女性の取締役レベルの代表者が企業の取引に与える影響（*Gender Diversity and M&A Outcomes: How Female Board-Level Representation Affects Corporate Dealmaking*）」についてお話を伺いました。2月18日発行予定のこのレポートは、16,700件を超えるM&A取引に関する20年間に及ぶ調査に基づき、女性の取締役レベルの代表者が企業のディールメイキングやM&A成功の主な指標（株価値動き、成長率、収益性、資本利益率、株主価値など）に与える影響について、最近完了した調査結果から解説しています。

マリアンヌ・ルイス氏は、シンシナティ大学カール H. リンドナー カレッジ・オブ・ビジネスの第10代経営学部長兼教授を務めています。以前はロンドン大学シティ校キャスビジネススクールの学部長を務め、英国フルブライトスカラーでもありました。ルイス教授は学者としてのキャリアを通じて数多くの教育および研究に関する賞を受賞しています。組織パラドックスの国際的な専門家である同教授の研究では、リーダーシップとイノベーションを取り巻く緊張と競合的需要について調査し、自身の名高いパラドックスレンズを、戦略、製品開発、組織変更、ガバナンス、テクノロジー導入などの多様な背景に適用しています。2000年にAcademy of Management Review Best Paper Awardを受賞したルイス教授の論文「*Exploring Paradox: Toward a More Comprehensive Guide*」は、この分野で最も引用されているものの一つです。同教授の研究論文は*Harvard Business Review*、*Academy of Management Journal*、*Organization Science*、*Journal of Operations Management*、*Human Relations*等の一流専門誌に掲載されています。ルイス教授は、インディアナ大学ケリー・スクールオブビジネスでMBAを、ケンタッキー大学Gatton College of Business and Economicsで博士号を取得しました。

イントラリンクス：はじめまして、マリアンヌさん。今日は弊社のジェンダー・ダイバーシティとM&Aの研究結果に関してご意見をお聞かせいただきたいと思います。私たちはこのレポートを作成するための調査を、ロンドン大学キャスビジネススクールM&Aリサーチセンター（MARC）と共同で実施しました。最近まで同ビジネススクールの学部長を務めていらした経緯から、M&Aの理論と実践の研究におけるキャスの評判にMARCが与えた影響をどのようにとらえていらっしゃいますか？

マリアンヌ・ルイス：MARCとの共同研究は驚きに満ちた経験でした。MARCは、熱心なビジネスパートナーのコミュニティから提供される貴重な洞察に基づいて、厳密な研究を行っています。こうしたビジネスパートナーは同センターの諮問委員会にも在籍し、委員会の一部を形成しています。委員会では、提案された研究を承認する前に広範囲にわたって議論しま

すが、そうした方法は本当に重要な問題に限定して研究していくのに役立ちます。関連性が最初から研究に組み込まれるのです。

企業構造および企業の最高幹部におけるジェンダー・ダイバーシティというテーマは、過去数年間ますます注目を集めていますが、学術研究分野でも同じですか？また、経営分野での学術的関心の対象として考えた場合のご自身の経験を教えていただけますか？

ジェンダー・ダイバーシティは、学界でもビジネスの世界と同じくらい問題になっています。多くの学術分野で性差による偏見の懸念があります。2015年に私がキャスに加わったとき、ビジネススクール上位100校のうち、女性が率いるのはわずか8校でした。研究では、MBAの教育評価、社会人MBAの採用、特定の分野の教員の昇進における性差による偏見の懸念が提起されています。女性が上級幹部職に昇進するまでの「水漏れパイプ（leaky pipeline）」がまん延しており、企業から学界に至るまで注意が必要です。

> 経験、スキル、人口構成（性別や人種を含む）の多様性が、確固とした共通の目的や、批評や議論に対する意欲と一体となり、強力な組み合わせとなるのです。

レポート自体を見ると、この研究から興味深い発見がいくつかありました。一つは、女性のCEOによる買収は男性のCEOによる買収に比べ、投資家からの好意的な反応が少ない（つまり、取引後の短期的および長期的な買収企業の株価値動きが悪い）ことです。また、この調査では、売上高伸び率、収益性、総資産/自己資本利益率などの社内業績指標を見ると、買収後の数年間、女性CEOが率いる買収企業は男性CEOの企業よりも大幅に優れていることがわかりました。それでは、市場は女性のCEOが取引を成功させる能力を過小評価しているのでしょうか？その理由は何だと思われますか？

私には、これは潜在的な偏見の典型的な例のように見えます。市場の反応は、認識や、試行錯誤による発見、つまり「経験則」に影響されます。投資家の認知レンズは、迅速な意思決定に影響を与え、偏見を持続させる可能性があります。ハーバード大学のアイリス・ボーネット（Iris Bohnet）教授は自身の著書*What Works: Gender Equality by Design*のなかで、偏見は根深いものであり、私たちの心に深く埋め込まれていると記しています。そのため、迅速で多くの場合正確な意思決定が可能になりますが、同時に自己達成的で正確性に欠けることもあります。世界がどう機能しているかについての固定観念は、世界がどのように機能すべきかという論点に変わる可能性があり、私にとって、この調査結果はまさにそのような例を示唆しています。受け止めに基づいた、ディールのプラスの業績とは対照的な市場の芳しくない反応を、実際の結果に基づいて見てみてください。

この調査では企業の取締役会の性別の構成についても尋ねており、少なくとも30%の女性取締役を任命している買収企業の取引後の株価値動きは、全員男性の取締役会を有する買収企業よりも顕著に優れていることがわかりました。これらジェンダーバランスのとれた買収企業が行ったディールは、リスク回避型（小規模のディール、海外企業との取引が少ない、高い成長率および収益性）の傾向がありました。組織における意思決定構造についてのご自身の経験はどのようなものですか？また、よりジェンダーバランスのとれたリーダーシップ構造は、どのようにして優れた意思決定と結果をもたらすのでしょうか？

多様性と優れた意思決定には明らかな関連性があります。*チャレンジャー号*の事故調査（1986年に発生した米国のスペースシャトル発

射直後の爆発事故）では、多様性や既存の想定への疑問があるときの「集団思考」の危険性が立証されました。この調査とそれに続く多くの取り組みでは、重要な決定を下す際に議論全体に多様性を持たせることがいかに重要かが強調されました。意思決定の状況における不確実性と曖昧さが大きければ大きいほど、多様性のある意思決定者の価値が高まります。経験、スキル、人口構成（性別や人種を含む）の多様性が、確固とした共通の目的や、批評や議論に対する意欲と一体となり、強力な組み合わせとなるのです。

最後に、企業の上級幹部および管理職の役割への女性の参画を、政府、規制当局、企業はどのように改善できると思われますか？

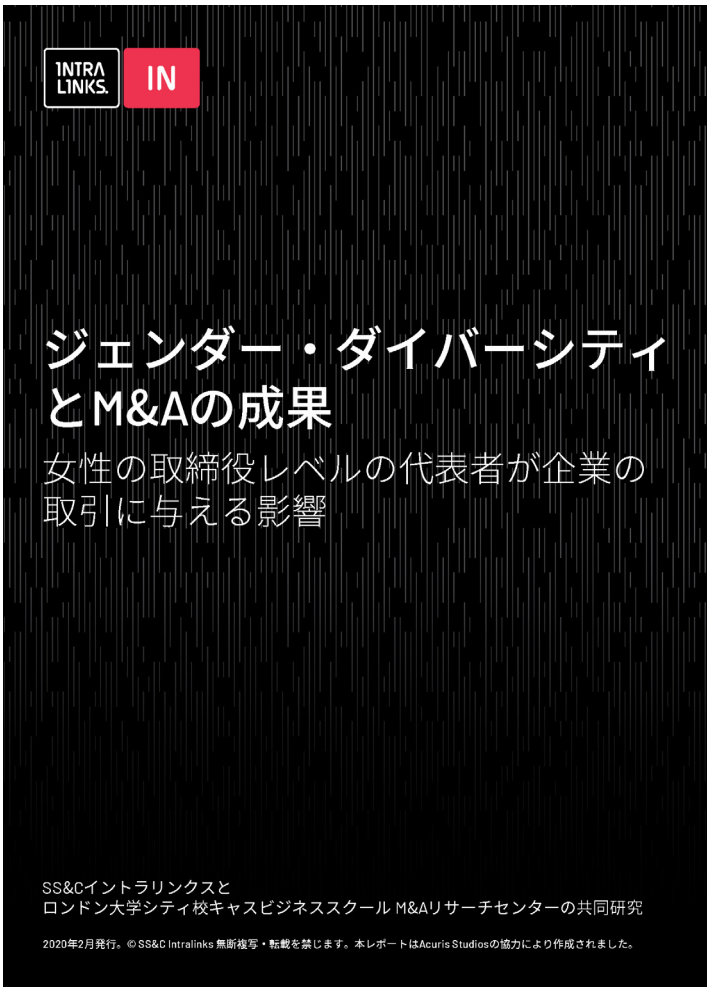
脱バイアス（Debiasing）、すなわち偏見をなくすことは非常に難しいプロセスであり、私は厳格な規制やノルマの強制は支持しません。とはいえ、例えば英国で推進されている目標は、透明性の向上や企業間の圧力を通じて影響を与えています。現在、私たちは変革期にあり、現状に疑問を持ち始め、制度化されたバイアスを部分的に解除し始めています。これは重要なスタートです。実践的な観点から言えば、リーダーが潜在能力を最大限に発揮できるよう支援するうえで、メンタリングや人材への実際の個人的サポートが大きな影響を与えることが明らかになっています。

貴重なお時間をいただきありがとうございました。

どうもありがとうございました。

「ジェンダー・ダイバーシティとM&Aの成果：女性の取締役レベルの代表者が企業の取引に与える影響」を発行後すぐに受け取るには、こちらをクリックして登録してください。

ここをクリック



SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクター

お近くのイントラリンクスの拠点情報：
www.intralinks.com/jp/contact

*SS&Cイントラリンクス ディール フロー・プレディクター*は、任意の期間に世界中で発生した初期段階のM&A活動水準に関するSS&Cイントラリンクスの考えを提供するものです。本レポートに記載されている統計データは、アセット売却、部門売却、プライベートエクイティ・プレースメント、資金調達、キャピタルレイズ、ジョイント・ベンチャー、アライアンス、パートナーシップなどの取引提案に関するデューデリジェンスの実施のために、SS&Cイントラリンクス、または他の提供業者を通じて開示された、あるいは開示を提案されたバーチャルデータルーム（VDR）サービスの件数を基にしております。これらの統計は、VDRマーケットにおける弊社のシェア、あるいは市場の需要の変化による調整を行っておりません。これらの統計は、市場データ提供業者が報告する取引完了件数とは関連がありません。また、任意の期間において最終的に実現した取引件数およびSS&Cイントラリンクスが任意の会計期間に発生させる収益またはM&Aディール件数を示すと解釈されるべきものでもありません。*SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクター*が将来的な取引完了の兆しを暗示しているものについては、デューデリジェンスから取引完了までの段階にあると想定されるディールの割合に基づいています。また、市場データ提供業者によって提供された公表M&A取引に関する統計数値は、上記とは異なる種類の取引を基にしてまとめられている可能性があります。

弊社は、SS&Cイントラリンクス　ディール・フロー・プレディクターの予測力を検証するため、SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクターを基盤としたデータとリフィニティブ社がその後発表する公表済みディール件数のデータを比較し、経済モデル（線形回帰モデルの概算に適した標準的な統計的手法を使用）を構築し、2四半期先に発表されるM&Aディール件数（リフィニティブ社の発表データ）を予測します。弊社は、独立系の統計コンサルティング兼データサイエンスリサーチ会社、Analysis & Inference (A&I) に、本モデルの分析、反復実験、評価を依頼しました。A&Iの分析によると、SS&Cイントラリンクスの予測モデルには統計的に有意な連動性が認められ、SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクターを6カ月後にリフィニティブ社の発表する公表済みディール件数の統計的に有意な予想指数とみなせる確率は99.9％以上に達しました。弊社は今後も第三者による統計分析を定期的に行い、SS&Cイントラリンクス　ディール・フロー・プレディクターに将来的なM&A活動の予測指標としての有効性があるか否かを確認していく予定です。

SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクター・レポートは、情報提供のみを目的として現状有姿のまま提供されています。イントラリンクスは本レポートの内容の適時性、正確性、または完全性に関するいかなる形態の保証も行いません。本レポートは、限定された種類の取引についてイントラリンクス、または他の提供業者のVDRのプラットフォーム上で現在実施されているか、実施を提案されているデューデリジェンス活動に関するイントラリンクスの見解および主観的解釈に基づくもので、これまでの、または将来的なイントラリンクスの経営成績や業務実績の指標とすることを意図したものではありません。本レポートは投資に関するアドバイスの提供や、いかなる投資取引の勧誘も目的としていません。

SS&Cイントラリンクスについて

SS&Cイントラリンクスは、グローバルバンキング、ディールメイキングおよびキャピタルマーケットコミュニティ分野における金融テクノロジーのリーディングプロバイダーです。バーチャルデータルームのパイオニアとして、SS&Cイントラリンクスの技術は、M&Aやキャピタルレイズ、投資家レポートといった戦略的イニシアティブに欠かせない安全かつ安心な情報の交換を促進し、業務の効率化、リスクの低減、クライアントエクスペリエンスと可視性の向上を図ることでこれらの活動を支援しています。Fortune 1000企業の99％以上が利用する弊社のプラットフォーム上では34兆7,000万ドル相当以上の金融取引が行われています。

詳細は、intralinks.com/jpをご覧ください。

「SS&C Intralinks」およびIntralinksロゴは、SS&C Intralinks, Inc.の登録商標です。また、本レポートでは、登録商標であるかの確認をすることなく、他社の商号および商標を参照している場合があります。SS&Cイントラリンクス ディール・フロー・プレディクターは、私的かつ非営利目的にのみ使用可能です。本レポートの内容を、SS&Cイントラリンクスの許可なく複製、配布または発表することを禁じます。SS&Cイントラリンクス　ディール・フロー・プレディクターの内容の再発行に関する許可については、info@intralinks.comまで電子メールにてお問い合わせください。

*本レポート*に記載されているリフィニティブ社のM&Aディールレポートや公表済みディールのデータは使用許可をいただいています。この場を借りて御礼を申し上げます。

© 2020 SS&C Intralinks, Inc.

intralinks.com/jp

© 2020 Intralinks, Inc. All rights reserved.